

## 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第9回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第9回）
日時	令和8年1月16日
出席者 (敬称略)	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 安平町 町長 及川 秀一郎</li><li>• 安平町 教育長 井内 聖</li><li>• 安平町商工会 会長 小林 正道</li><li>• 安平町誘致企業会 会長 島田 裕之</li><li>• 安平地区連合自治会 会長 佐々木 弘</li><li>• 早来地区自治会連合会 会長 山下 美樹</li><li>• 遠浅地区自治会連絡協議会 会長 小坂 亮一</li><li>• 追分地区町内会連合会 会長 真保 立至</li><li>• 且見 曉</li><li>• 宮崎 晃行</li></ul> <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 山中 康裕 (WEB参加)</li><li>• 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 室長補佐 桂 愛子 (WEB参加・西野室長の代理)</li><li>• 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 山本 恭輔 (WEB参加・西野室長の代理)</li><li>• 北海道銀行 安平エリア統括早来支店長 山内 淳</li><li>• 北海道ガス株式会社 環境・地域共創推進部地域連携推進 グループマネージャー 宮澤 智裕 (WEB参加)</li><li>• 北海道電力株式会社 道央南統括支社販売グループリーダー — 田中英樹 (吉田支社長の代理)</li><li>• 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支店業務部</li></ul>

	<p>長 菊地 鉄也（黒須支店長の代理）</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 税務住民課 生活環境担当課長 佐々木 智紀</li> <li>• 安平町 税務住民課 ゼロカーボン推進グループ 嶋山 津与志</li> <li>• 安平町 政策推進課 まちづくり担当課長 山口 崇</li> <li>• 安平町 税務住民課（ゼロカーボン推進員） 岸本 佳也</li> <li>• エイコーワナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠太郎</li> <li>• エイコーワナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫</li> <li>• 株式会社 DG ネットワーク 事業アドバイザー 北野 史人</li> </ul>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 出席者名簿</li> <li>• 2 ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）</li> <li>• 3 今後の主なゼロカーボン関連の予定について（報告）</li> <li>• 4 公共施設の電力供給切り替えについて（報告）</li> <li>• 5 スマートエコタウンについて</li> </ul>

## 1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、及川町長が議長となり、及川町長から挨拶が行われた。

その中で、メガソーラーの反対署名と計画の取り下げがあったことに触れ、再エネの促進と環境の保全について、既存の条例の改正や景観条例の制定などのルール化を、情報収集しながら対応していきたい旨の表明があった。

その他、安平町の社会人口増とそれに伴う住宅建設のこと、スマイルジャパンの三浦芽依選手の表敬訪問を受けたことなどが紹介された。

また、設置要綱第6条第2項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

## 2. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）

事務局より、「2 ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）」に基づいて報告が行われ、以下の補足が行われた。

### 【補足】

- 早来学園でのSDGs授業については、生徒につながりについて理解してもらおうと野心的な学習を行った。子供達の興味があるものについて、それがどこからやってくるのか、ということを調べてもらった。結果としては半分くらいの子が、文房具などが手元に来るまでに色々な人が関わっているということを理解してくれた。途中で止まってしまったり、社会のつながりではなく興味本位のことを調べてしまったりした子もいた。主体的に学び、自分の考えを伝えるということの第一歩になった。発表会の時はちょうど親子参観という日も兼ねていたので、親御さんに新しい学びの一つの試みであることをお伝えした。（アドバイザー）
- クリスマスフェスについては、前回の高齢者大学で参画させていただいた経験も活かしながら、子供達にどういう形で楽しんでいただきながら電気の方に取り組んでいただけるかというところを中心に実施した。大変好評だったと聞いており、子供達にとっても良い経験に繋げられたと思っている。（アドバイザー）

## 3. 今後の主なゼロカーボン関連の予定について（報告）

事務局より、「3 今後の主なゼロカーボン関連の予定について（報告）」に基づいて説明が行われた。

## 4. 公共施設の電力供給切り替えについて（報告）

事務局より、「4 公共施設の電力供給切り替えについて（報告）」に基づ

いて説明が行われ、以下の質疑応答が行われた。

【質疑応答】

- 安平公民館にはEV充電器が設置されているが、この電力はどうなるのか？（委員）
  - EV充電器については、施設の電気メーターから供給している場合と、電気メーターを新たに設置して供給している場合とあり、安平公民館の場合は、電気メーターを新たに設置して供給をしているが、いずれも施設と一緒に請求となっているため、今回の切り替えの対象となる。（事務局）

## 5. スマートエコタウンについて

事務局より、「5 スマートエコタウンについて」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【補足・意見交換・質疑応答】

- 資料にあるPVTとは何か？（議長）
  - 太陽光発電と太陽熱をハイブリッドで使用する機器である。（事務局）
- ZEH+もZEH-Mも太陽光発電のパネルは全て屋根の上に設置されるのか？（委員）
  - ZEH関係の基準については、断熱や高性能機器の使用や再エネの導入など様々あるが、何が補助対象になるか、補助要件がどうなるかは年によって変わっている。太陽光発電の導入が要件にならないこともありますかもしれない。町として補助事業を行う時に向けて、国の要件を確認しながら準備していきたい。（事務局）
  - 現状としては、太陽光発電の設置は、国からZEH関係の補助を受ける要件として入っているが、太陽光発電の設置費用は補助対象にはなっていない。（事務局）
- スマートエコタウンの整備が完了した後も、継続的に住宅に対する支援

を続けていく構想はあるのか？（委員）

- 財源として土地開発基金が安平町にあり、それを使って町で土地を買って整備して分譲している。結構すぐに買い手がついて、住宅が建っている状況である。町の後押し支援として転入奨励という既存のメニューもあるので、そういうところとも組み合わせながら、財政的なゆとりや国の支援策がある際にそれを活用し、大規模にはできないが、目標の 22 軒を目指して進めていければ良いと考えている。（議長）
- 北海道銀行では、ZEH 住宅のように断熱や省エネの基準を備えた住宅に向けて、カーボンニュートラル住宅ローンという、一般の住宅ローンよりも金利の低いメニューを用意している。他の銀行でも同様のメニューがある。ZEH 住宅は初期費用が高くなるが、その負担を少しでも和らげるために、こういったメニューを活用すると良いと思い、情報提供として申し上げる。（アドバイザー）
  - 北海道電力でもふらっとソーラーというプランを用意している。太陽光発電を設置しようとすると初期投資が問題になることがあるが、それをリースのような形で提供している。（アドバイザー）
  - 北海道電力ネットワークとしては、新築時などの時は、お客様が電気を繋ぎたい時期に間に合うように工事の計画をしっかりとやっていかないといけないと思っている。10kW 未満の太陽光発電については特段の制限はなく、申し込みをいただければ早期に接続が可能となっている。高圧やメガソーラーといったところは申し込みが多く、お時間をいただく場合もあるが、家庭用についてはそういうことはない。（アドバイザー）
  - 札幌市だと新築戸建住宅の 94% が ZEH 相当の断熱基準になっており、もう ZEH にするはある意味で当たり前になっている。一方、集合住宅の ZEH 率はたった 5% に過ぎない。これは借り手は家賃が安い方が良く、貸し手はアパートの投資が早く回収できた方が良い、という関係

からそうなってしまっている。これに対して、今回は集合住宅の方も ZEH-M でやろうとしているのはとても良い試みだと思う。(アドバイザー)

- 北海道で今回のような取り組みはあまり見つからないので、名称のブランド化も検討した方が良い。愛着や町の魅力を上げること、そこに住んでいる人の意識を高めることなどにつながる。例えば 1 民間企業がやっている例だが、当別町にスウェーデンヒルズという街がある。(アドバイザー)
  - スマートエコタウンも複数箇所できるだろうから、作る土地の地名を入れることを考えている。以前より「太陽の恵み」などの表現を入れてイメージアップを図ることも助言をいただいているので、今後検討していきたい。(議長)
- スマートエコタウンへ供給される電力はあびらエナジーから供給する形にするとどうか？(アドバイザー)
  - あびらエナジーとしてはまずは公共施設というところをやり切つて、様々なデータ収集をして、その先に全町域で展開していくければ良いと思う。(議長)
- 家というのは長持ちしないといけないので、長期ビジョンが必要なので、町がこういうことを推奨していると安心して買うことができるし、そういう意の高い方々が住まわれると嬉しいと思う。(アドバイザー)

## 6. その他

事務局より、当協議会の委員とアドバイザーの任期が 1 月 22 日となっており、是非とも継続して担っていただきたい旨の説明があり、継続が困難な方は事務局に連絡が欲しい旨の説明があった。

また、事務局より委員の欠員について高村みずほ氏を補充したい旨の説明があり、議長が諮ったところ異論はなかった。

7. 次回協議会について

事務局より、5月26日(火)10:00から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

8. 閉会